

年 頭 所 感

千 喜 林 田

明けましておめでとうございます。

昨年を振り返ると、日本全体の景気は回復基調にあるものの、北海道だけは乗り遅れている模様。やはり「やっかい道」かと思っていたが、夏の高校野球全国大会で駒大苫小牧高校が優勝。「やっかい道」でもやれば出来ると言う希望と勇気を若者が与えてくれた。

また、全国的に災害の多い年であった。新潟県中越地震、相次ぐ台風の襲来。9月8日早朝から昼過ぎにかけ台風18号が北海道の日本海沿岸を北上。国道229号の大森大橋が落橋したり、函館港の防波堤ケーソンが移動破損するなど信じられない被害が続出。当研究所でも強風のため沢山の木が根こそぎ倒れた。

三位一体改革、市町村合併、道州制、年金制度、郵政・道路公団民営化など、既往の制度・組織の見直し議論が盛んに行われた。他人事だと思っていたら、当研究所も中期計画終了時の見直しを前倒しで行うとの事。4ヶ月にも渡る噛み合わない議論の末、当方の主張は取り入れられず土木研究所との統合、非公務員化が決まってしまった。

さて、今年は西暦2005年、平成17年、乙酉（きのととり）。急激な社会環境の変化を考えると今年はどんな年になるのやら想像も付かない。乙酉の「乙」は春の初めに草木がまだ伸び出せずに屈曲している状態を表しているとの事。「酉」は酒を造る器。と言うことは、酒を飲みながら、じっと耐えている様子を表しているのか？そんな状況はあちこちで見られる。

当研究所にとって、今年は中期計画の最終年。「乙酉」状態になっている場合ではない。まず、今期計画

北海道開発土木研究所 理事長\*

齊 藤 智 徳\*



の最終取り纏め。本来、これにより5カ年間の実績評価を受け、その結果を次期計画に継ぐはずであった。ところが昨年、評価もせず、業務、組織の見直しが行われた。いささか騙された感もするし、独法制度の欠陥かとも思う。

当研究所のミッションは単に研究報告書を作れば良いと言ったものではない。行政に活かされ、社会に受け入れられなければ意味はない。そのため、独法として発足して以来、成果の普及に力を入れてきた。ランブル・ストリップスの様に実用化され現場で広く使われ始めている成果もある。また、各種研究集会での論文の発表は勿論、最新の知見、情報を発信する各種セミナーの開催も頻繁に行ってきた。今、独法として非常に活性化した状態にある。中期計画の最後の1年、この状態を持続し、計画、ミッションの完全達成を目指したい。

次に、平成18年度から始まる次期計画に向けての準備作業。タイムリミットは8月の概算要求。膨大な作業、調整が予想される。非公務員化、土木研究所との統合に向け、組織・制度の再構築。研究計画、財務計画等々をどうするのか。二つの研究所は研究領域の違い、歴史・文化、諸々の制度の違いが有り困難な調整作業が予想される。更に、所在地が離れていることから一層困難な作業になりそうに思う。

いずれにしろ、それぞれのミッションは変わらない事から、効率的、効果的に業務運営の出来る組織・制度、計画の立案を目指したいと思っている。

今年1年、皆様のご健康とご活躍を祈念します。